

吹田市スポーツ施設整備方針 【素案】

＜吹田市スポーツ施設整備方針＞

1. スポーツ施設整備方針の策定にあたって	3
(1) スポーツ施設整備方針の目的	3
(2) スポーツ施設整備方針の位置付け	3
2. スポーツ施設の現状と課題	4
(1) スポーツ施設の概要	4
(2) スポーツ施設で実施可能な競技種目	5
(3) スポーツ施設の利用状況	6
(4) スポーツ施設の評価	7
(5) アンケート結果からみるスポーツ施設の現状	10
3. 施設整備に向けた課題の整理	13
4. スポーツ施設整備の方針	14
5. スポーツ施設の整備にあたって	15

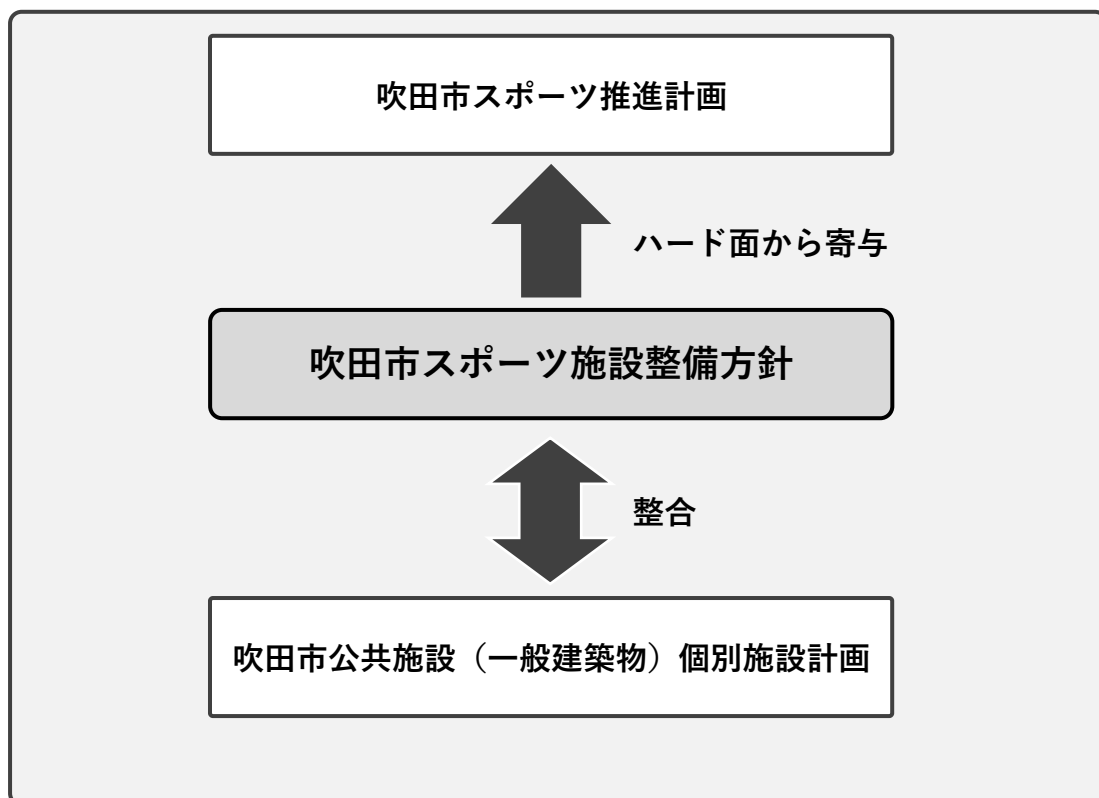
1. スポーツ施設整備方針の策定にあたって

(1) スポーツ施設整備方針の目的

「吹田市スポーツ施設整備方針」(以下、「施設整備方針」といいます。)は、「吹田市スポーツ推進計画」(以下、「推進計画」といいます。)における方向性を踏まえつつ、スポーツ施設の利用状況や将来の人口動態などを勘案し、施設整備に向けた課題を整理したうえで、スポーツ施設のあり方や配置、有効活用など、今後のスポーツ施設整備を計画的に進めていくための方針を示すことを目的としています。

(2) スポーツ施設整備方針の位置付け

施設整備方針は、推進計画において掲げた施策を効果的に推進していくにあたって、スポーツ施策推進の拠点となるスポーツ施設の今後の整備の方向性について示すものです。そのため、推進計画との整合を図ることを基本としつつ、吹田市公共施設(一般建築物)個別施設計画とも整合を図っていくこととします。



2. スポーツ施設の現状と課題

(1) スポーツ施設の概要

本市のスポーツ施設は、昭和 37 年に設置された片山市民プールを皮切りに、中の島スポーツグラウンド（昭和 39 年）、桃山台・高野台スポーツグラウンド（昭和 46 年）、片山市民体育館（昭和 47 年）と続き、その後、市民体育館 3 館、市民プール 3 施設、武道館、総合運動場、最後に目俵市民体育館（平成 9 年）が順次整備され、今日まで市民のスポーツ活動の拠点として、重要な役割を果たしています。また、平成 27 年には市立吹田サッカースタジアムが本市に寄贈されました。

現在、市立吹田サッカースタジアム以外で最も新しい目俵市民体育館でも整備後 26 年、最も古い片山市民プールにおいては半世紀が経過し、スポーツ施設の老朽化が進んでいます。

■スポーツ施設の配置図



(2) スポーツ施設で実施可能な競技種目

本市のスポーツ施設は、体育館では卓球やバドミントン、バスケットボールや武道等、スポーツグラウンドでは野球やテニスといったように、供用開始当初から親しまれている競技種目が主な利用対象となっていますが、近年のスポーツ種目やニーズの多様化への対応として、スポーツグラウンド（野球場）のサッカーでの利用や、体育館のフットサルでの利用なども一部施設で開始しています。

施設区分	施設名	利用種目																										
		サッカー	ラグビー	グラウンドゴルフ	陸上競技	卓球	バスケットボール	バレーボール	バドミントン	ソフトバレーボール	ソフトボール	野球		プール			テニス			クライミング	柔道	剣道	日本拳法	空手	弓道	少林寺拳法	トレーニング	
												軟式野球	少年野球	50m	25m	25m屋内	幼児用プール	砂入り人工芝	ハードコート									室内コート（体育館内）
体育館	片山市民体育館					●	●	●	●	●										●	●	●	●	●	●		●	●
	北千里市民体育館					●	●	●	●	●									●		●	●	●	●			●	●
	山田市民体育館					●	●	●	●	●									●		●	●	●	●			●	●
	南吹田市民体育館					●	●	●	●	●									●		●	●	●	●			●	●
	目黒市民体育館					●	●	●	●	●									●	●	●	●	●	●			●	●
武道館	武道館（洗心館）					●																●	●	●	●	●	●	
総合運動場	総合運動場	●	●	●	●																							●
プール	片山市民プール													●	●	●	●											●
	北千里市民プール（屋外）													●			●											
スポーツグラウンド	中の島スポーツグラウンド	△		△							●	●	●					●										
	桃山台スポーツグラウンド	△		△							●	●	●					●										
	山田スポーツグラウンド			△							●		●					●										
	南正雀スポーツグラウンド																	●										
	高野台スポーツグラウンド	△		△									●															
スタジアム	市立吹田サッカースタジアム	●																										

△制限付きで使用可

(3) スポーツ施設の利用状況

平成 29 年度(2017 年度)までの各スポーツ施設の利用状況は、施設ごとの修繕工事や天候等の影響での変動はあるもののおおそ横ばいとなっています。

平成 30 年度(2018 年度)に発生した大阪府北部地震や大型台風など自然災害の被害による長期間の利用中止や、令和 2 年度以降の新型コロナウイルス感染症の影響拡大により、平成 30 年度(2018 年度)以降は、ほとんどの施設において利用者数が減少しました。

令和 4 年度は利用者数が回復傾向にありますが、ほとんどの施設で以前の水準までには至っていません。

(単位：人)

		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
	片山市民体育館	139,164	142,048	146,126	123,967	69,572	76,222	102,137
	北千里市民体育館	119,902	111,839	62,153	50,054	29,349	56,208	81,876
	山田市民体育館	163,741	165,402	96,121	103,509	54,790	76,895	112,448
	南吹田市民体育館	88,125	90,697	78,625	83,471	48,726	50,437	70,641
	目黒市民体育館	155,130	156,635	153,226	146,743	92,305	93,365	124,512
体育館合計		666,062	666,621	536,251	507,744	294,742	353,127	491,614
中の島スポーツグラウンド	野球場	35,739	36,158	20,378	22,117	24,496	23,849	30,578
	テニス	36,616	35,617	26,257	25,842	21,193	32,502	37,639
	多目的	—	—	5,755	3,050	3,174	4,036	5,519
桃山台スポーツグラウンド	野球場	34,813	33,606	39,341	33,181	23,719	22,266	23,954
	テニス	26,809	25,825	26,531	23,234	19,636	19,172	20,874
山田スポーツグラウンド	野球場	13,065	10,075	5,286	6,640	7,645	9,639	10,730
	テニス	17,121	16,834	16,327	15,765	12,947	13,582	15,365
高野台スポーツグラウンド		33,150	31,824	49,841	27,944	22,332	25,166	30,891
南正雀スポーツグラウンド		37,223	48,855	43,909	40,835	41,130	29,519	45,093
武道館		99,286	100,091	55,410	85,521	42,005	50,877	73,880
総合運動場		116,804	124,263	127,259	58,614	88,836	94,947	121,485
片山市民プール		234,559	218,647	58,536	70,261	68,870	71,190	117,293
北千里市民プール		48,641	47,116	9,784	37,103	0	0	20,830

資料：吹田市統計書

(4) スポーツ施設の評価

令和3年3月に策定した「吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画」では、個別施設の方針を検討するにあたり、施設評価を実施しています。

本項では、その結果について掲載しています。

①評価の基本的な考え方（「吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画」より）

ア) 施設評価の項目と視点

各施設について、3つの視点（供給（サービス）、品質（建築物）、財務（コスト））から、以下に示す10の施設評価の項目について、それぞれ施設評価の基準に基づいた数値化による評価を行っています。なお、施設評価は令和2年10月時点のものです。

分類	項目	評価の視点
供給 （施設サービス）	①設置目的	施設を設置する根拠となる法律や条例で定められた設置目的が、現在の施設の運営状況と合致しているか
	②代替性	民間施設も含めて、利用実態が近似している施設があるか
	③地域性	施設設置時に想定した利用圏域と実態が乖離していないか
	④利用状況	利用率・延床面積当たりの利用者数等
	⑤施設状況	施設全体の規模や室状況（仕様・性能等）が利用に適しているか
品質 （建物）	⑥耐震性能	耐震化の実施状況
	⑦機能性 （バリアフリー）	バリアフリー化の主な項目（施設誘導、出入口、施設内移動（車椅子対応EV）、トイレ）に対する整備状況
	⑧-1 築年数 ⑧-2 保全状況	令和2年度（2020年度）を基準とし、・建築物の経過年数・屋根・外壁の建設時（又は前回更新時）からの経過年数
財務 （コスト）	⑨維持管理費	光熱水費など毎年発生する維持管理費の状況 （維持管理費÷延床面積）
	⑩事業運営費	人件費など毎年発生する事業運営費の状況 （事業運営費÷利用者数等）

※④利用状況、⑨維持管理費、⑩事業運営費のデータは、平成25年度～平成29年度の5年間の平均値により評価しています。

イ) 施設評価の基準

施設評価の主な基準は以下のとおりです。なお、各項目において特定の施設を評価の対象外としている場合があります（建物を賃借・区分所有している施設や文化財の施設は「⑥耐震性能」を評価の対象外とする、など）。

分類	5 点	4 点	3 点	2 点	1 点
① 設置目的	当初の設置目的と現状が合致している	－	概ね合致している	－	合致していない
② 代替性	代替性なし (近似施設がない)	－	どちらともいえない	－	代替性あり (近似施設がある)
③ 地域性	利用圏域と実態が合致している	－	概ね合致している	－	利用圏域と実態が乖離している
④ 利用状況	利用率が高い、利用者数が多い	利用率がやや高い、利用者数がやや多い	平均的な利用率・利用者数	利用率がやや低い、利用者数がやや少ない	利用率が低い、利用者数が少ない
⑤ 施設状況	問題なし	－	概ね問題なし	－	問題あり
⑥ 耐震性能	耐震力有、耐震改修済、令和 2 年度(2020 年度)までに耐震改修・建替え決定	－	令和 3 年度(2021 年度)以降に耐震改修・建替え予定	－	耐震改修・診断実施未定
⑦ 機能性	(7 点満点の場合) 6～7 点 (5 点満点の場合) 4～5 点	－	(7 点満点の場合) 4～5 点 (5 点満点の場合) 3 点	－	(7 点満点の場合) 0～3 点 (5 点満点の場合) 0～2 点
⑧-1 築年数	(RC,S,CB の場合) 建設～15 年 (LS,W の場合) 建設～10 年	(RC,S,CB の場合) 16 年～30 年 (LS,W の場合) 11 年～20 年	(RC,S,CB の場合) 31 年～45 年 (LS,W の場合) 21 年～30 年	(RC,S,CB の場合) 46 年～60 年 (LS,W の場合) 31 年～40 年	(RC,S,CB の場合) 61 年～ (LS,W の場合) 41 年～
⑧-2 保全状況	計画修繕周期に達していない	計画修繕周期を超えているが、計画更新周期には達していない	概ね計画更新周期に達している	計画更新周期を超えている	計画更新周期を大幅に超えている
⑨ 維持管理費	コストが低い	コストがやや低い	平均的なコスト	コストがやや高い	コストが高い
⑩ 事業運営費	コストが低い	コストがやや低い	平均的なコスト	コストがやや高い	コストが高い

②各施設の評価結果

各施設の評価結果は以下の通りです。

①設置目的や⑥耐震性能についてはほぼすべての施設で高い評価となっている一方、⑤施設状況はすべての施設において最低評価となっています。また、⑦機能性より、一部スポーツグラウンドにおけるバリアフリー化が十分でないほか、⑨維持管理費や⑩事業運営費では一部体育館やスポーツグラウンドにおいてコストが高くなっていることがうかがえます。

なお、令和2年10月時点で、目黒市民体育館や総合運動場、中の島スポーツグラウンドや桃山台スポーツグラウンドが計画更新周期を超えています。

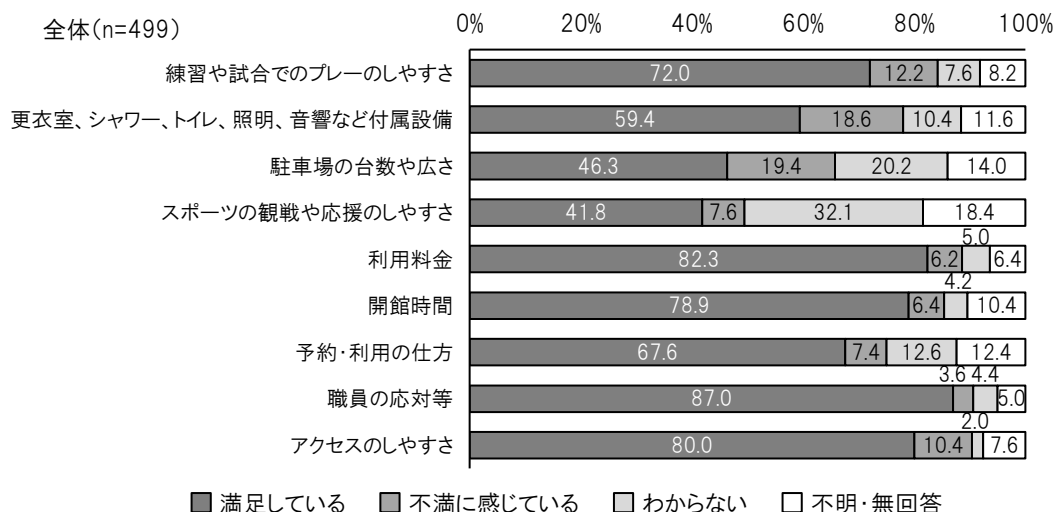
番号	施設名称	供給 (サービス)					品質 (建物)				財務 (コスト)	
		① 設置 目的	② 代 替 性	③ 地 域 性	④ 利 用 状 況	⑤ 施 設 状 況	⑥ 耐 震 性 能	⑦ 機 能 性	⑧・ 1 築 年 数	⑧・ 2 保 全 状 況	⑨ 維 持 管 理 費	⑩ 事 業 運 営 費
1	片山市民体育館	5	5	5	3	1	5	5	2	3	5	3
2	北千里市民体育館	5	5	5	3	1	5	5	3	3	1	3
3	山田市民体育館	5	5	5	3	1	5	3	3	4	4	5
4	南吹田市民体育館	5	5	5	3	1	5	3	3	4	1	2
5	目黒市民体育館	5	5	5	3	1	5	5	4	2	5	1
6	武道館（洗心館）	5	5	3	-	1	5	5	4	4	-	-
7	総合運動場	5	3	3	-	1	5	5	4	1.6	-	-
8	中の島スポーツグラウンド	5	3	3	3	1	5	1	3	1.5	5	1
9	桃山台スポーツグラウンド	5	3	3	2	1	5	1	3	1.5	4	3
10	山田スポーツグラウンド	5	3	3	4	1	5	1	3	5	5	3
11	南正雀スポーツグラウンド	5	3	3	3	1	5	3	4	5	1	3
12	片山市民プール	5	5	5	-	1	5	3	3	3.9	-	-
13	北千里市民プール	5	5	5	-	1	3	1	2	4.5	-	-

(5) アンケート結果からみるスポーツ施設の現状

①スポーツ施設に対する満足度

○市内スポーツ施設の満足度については、全体では「職員の応対等」や「利用料金」、「アクセスのしやすさ」について満足しているという回答が高くなっているが、「更衣室、シャワー、トイレ、照明、音響など付属施設」や「駐車場の台数や広さ」については不満に感じているという割合が高くなっています。

■利用施設の満足度（全体）



■利用施設の満足度（「満足している」の割合、回答時利用施設別）

単位：%	n	練習や試合での プレーのしやすさ	更衣室、シャワー、トイレ、 照明、音響など付属設備	駐車場の台数や広さ	スポーツの観戦や 応援のしやすさ	利用料金
片山市民体育館	51	64.7	53.0	27.4	37.2	82.4
北千里市民体育館	65	78.4	64.6	57.0	35.4	80.0
山田市民体育館	53	68.0	49.1	45.2	26.4	94.4
南吹田市民体育館	35	71.4	68.6	60.0	51.4	80.0
目黒市民体育館	44	88.7	75.0	75.0	61.4	100.0
中の島スポーツグラウンド	31	77.4	32.3	29.0	35.5	96.8
桃山台スポーツグラウンド	20	45.0	45.0	15.0	40.0	60.0
山田スポーツグラウンド	30	90.0	70.0	70.0	53.3	93.3
南正雀スポーツグラウンド	18	77.8	72.2	22.2	27.8	100.0
総合運動場	41	68.2	63.4	48.8	51.2	78.0
武道館	41	85.4	85.4	39.0	61.0	73.2
片山市民プール	41	58.5	51.3	43.9	31.7	80.5

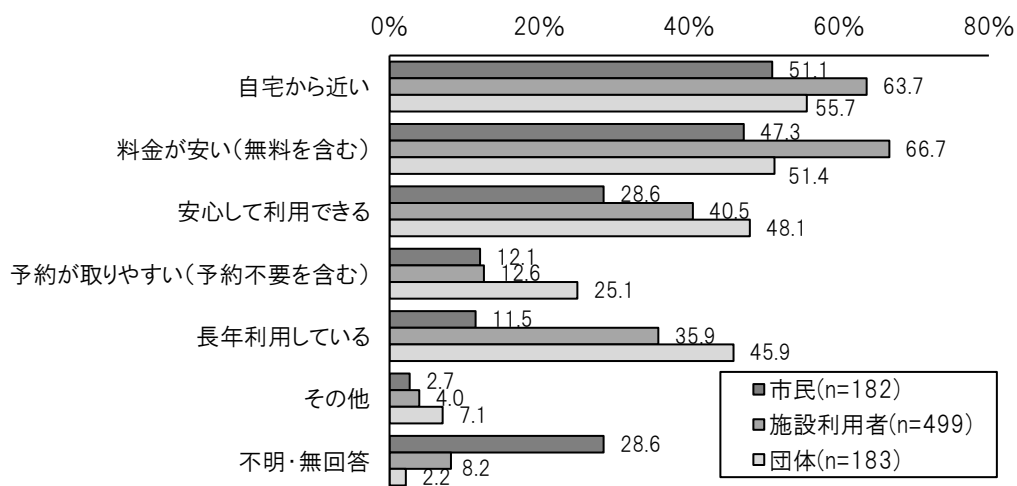
単位：%	n	開館時間	予約・利用の仕方	職員の応対等	アクセスのしやすさ
片山市民体育館	51	80.4	58.8	78.5	76.5
北千里市民体育館	65	87.7	63.1	89.2	84.6
山田市民体育館	53	77.4	69.8	100.0	86.8
南吹田市民体育館	35	91.5	65.7	82.8	74.3
目黒市民体育館	44	97.7	84.0	97.8	90.9
中の島スポーツグラウンド	31	67.7	87.1	93.5	93.5
桃山台スポーツグラウンド	20	80.0	60.0	70.0	80.0
山田スポーツグラウンド	30	76.7	76.7	86.7	90.0
南正雀スポーツグラウンド	18	83.3	94.4	94.4	88.9
総合運動場	41	80.5	56.1	90.2	80.5
武道館	41	78.1	68.3	90.3	75.6
片山市民プール	41	65.8	68.3	90.2	70.8

②施設利用に対する市民ニーズ

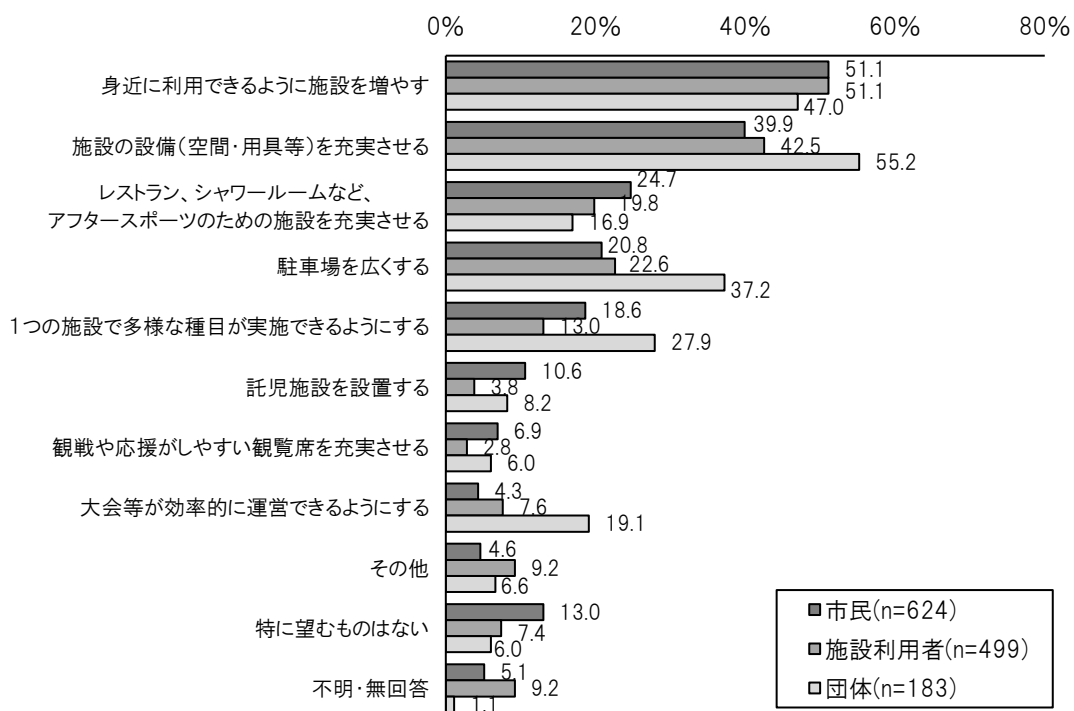
○施設を利用する際に考慮する条件として、全体では「料金が安い（無料を含む）」や「自宅から近い」が高くなっています。なお、施設利用者やスポーツ関係団体など、施設の利用頻度の高い調査対象の場合、「安心して利用できる」や「長年利用している」が高くなっています。

○施設の在り方については、全体では「身近に利用できるように施設を増やす」が高くなっていますが、施設利用者やスポーツ関係団体など、施設の利用頻度の高い調査対象の場合、「施設の設備（空間・用具等）を充実させる」や「駐車場を広くする」の回答割合が若干高くなっています。なお、スポーツ関係団体では「大会等が効率的に運営できるようにする」や「1つの施設で多様な種目が実施できるようにする」といった回答の割合も高くなっています。

■施設利用時に考慮する条件（市民・施設利用者・関係団体）



■施設の在り方について（市民・施設利用者・関係団体）



③今後の運動・スポーツに対する意向

○今後実施してみたい運動・スポーツは、「ウォーキング」や「トレーニング」、「登山・ハイキング・トレイルランニング」など、ひとりでも始められ、健康づくりにつながる種目の回答の割合が高くなっています。

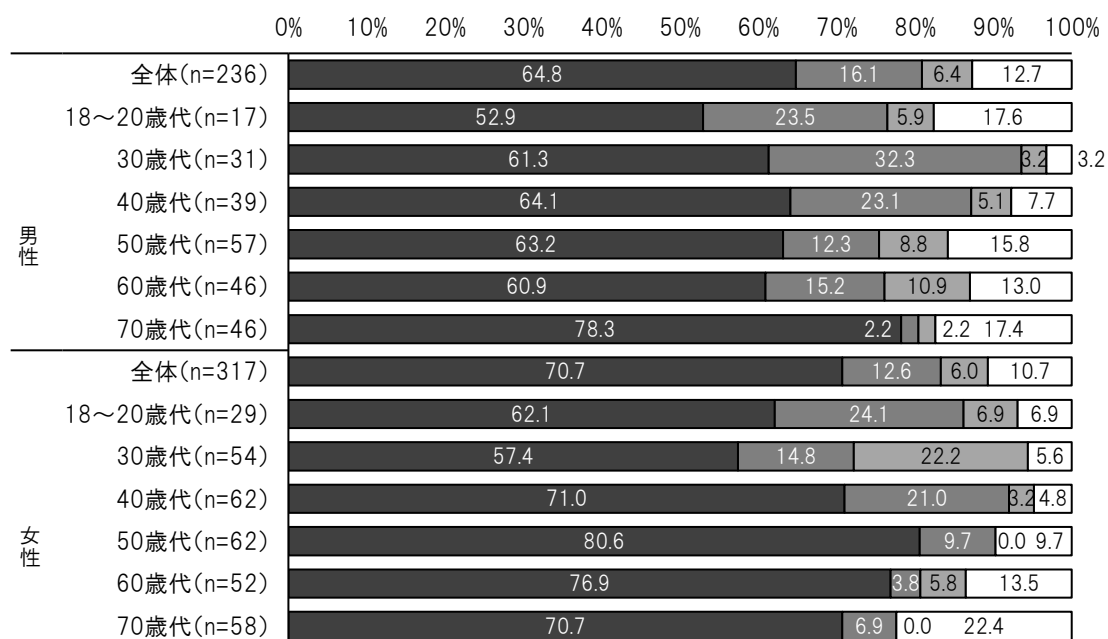
○今後の運動・スポーツ実施意向をみると、18～20 歳代、30～40 歳代の「あまりしていないが、今後する予定である」の割合が 20%以上となっており、スポーツを行う意欲が高いことがうかがえます。女性については、30 歳代で「している」が低く、「あまりしておらず、今後もしないつもりはない」が高くなっており、運動・スポーツに対する意向が低いことがうかがえます。

■今後実施してみたい運動・スポーツ（全体・年代別）

（単位：％）

全体（n=448）			18～20 歳代（n=40）			30 歳代（n=73）			40 歳代（n=91）		
1	ウォーキング	22.5	1	キャンプ・オートキャンプ	27.5	1	キャンプ・オートキャンプ	27.4	1	トレーニング	24.2
1	トレーニング	22.5	2	登山・ハイキング・トレイルランニング	22.5	2	トレーニング	26.0	2	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	22.0
3	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	18.3	3	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	20.0	3	エアロビクス・ヨガ・ピラティス	23.3	3	ランニング・ジョギング	20.9
（参考）国調査（n=20,000）			50 歳代（n=105）			60 歳代（n=73）			70 歳代（n=62）		
1	ウォーキング	29.2	1	トレーニング	28.6	1	ウォーキング	28.8	1	ウォーキング	29.0
2	トレーニング	12.3	2	ウォーキング	25.7	2	登山・ハイキング・トレイルランニング	26.0	2	体操	22.6
3	エアロビクス・ヨガ・バレエ・ピラティス	11.2	3	登山・ハイキング・トレイルランニング	25.7	3	トレーニング	21.9	3	アクアエクササイズ・水中ウォーキング	12.9

■今後の運動・スポーツ実施意向（男女年代別）



■ している

■ あまりしていないが、今後する予定である

■ あまりしておらず、今後する予定もない

□ 不明・無回答

3. 施設整備に向けた課題の整理

○施設や設備の老朽化への対応

供用開始から 50 年を超える北千里市民プールや片山市民体育館をはじめ、多くのスポーツ施設が建設後 30 年を超えており、施設や設備の老朽化が進んでいます。日常的な維持管理に加え、適宜改修や修繕を行っていますが、大部分が直近 10 年以内に大規模修繕等が必要となっています。

限られた財源の中で、安全で充実したスポーツ施設を持続的に提供していくためには、既存施設を見直しながら、計画的に修繕や改修、建替等を進めていく必要があります。

○多様化するスポーツへの対応

ジョギング・ランニングやトレーニングなど個人でもできるスポーツの実施率上昇や、アーバンスポーツ等の新たな種目への関心の高まり、紫外線対策、熱中症予防など、近年のスポーツを取り巻く環境の変化に伴いスポーツ施設に関するニーズも多様化しています。今後の施設整備を進めるにあたっては、多様化するニーズや種目、移り変わる流行に対応できるよう、長期的な視点で様々な種目や利用形態の受け皿になることができるという視点が必要です。

○誰もがスポーツに親しむことのできる場の提供

スポーツ推進計画では、年齢や性別、国籍、障がいの有無等にかかわらず、それぞれのライフステージや興味、関心に応じて、スポーツに親しむことができることが目標の一つです。そのための環境づくりとしては、市民が日常的にスポーツに取り組むことができる身近な施設であることはもちろんのこと、子供や障がいのある人など誰もがスポーツを楽しむことができ、生涯にわたってスポーツに親しむきっかけとなるような特色を持った施設の整備が効果的です。

○「みる」スポーツへの対応

市内の多くのスポーツ施設では、観戦や応援のしやすさについての満足度が低くなっており、「する」スポーツだけでなく「みる」スポーツの推進の視点をもち、バリアフリーやユニバーサルデザインを踏まえた改修をはじめ、観客席の確保など誰もが利用しやすく観戦しやすい施設整備を進めていく必要があります。

4. スポーツ施設整備の方針

方針 1 多種目・多目的で活用しやすい施設

- 多様化する市民ニーズや種目、移り変わる流行にも対応できるよう、長期的視点で様々な種目の受け皿になることのできる施設の整備を進めます。
- 雨天時の利用や紫外線対策など、天候に左右されずにいつでも利用できる施設の整備を進めます。

方針 2 インクルーシブの視点をもつ施設

- 障がいのある方や高齢者など、配慮を必要とする方にとっても利用しやすくなるよう、基本的なバリアフリー機能を有する施設の整備を進めます。
- 年齢や性別、国籍などに関わらず、あらゆる人がスポーツを楽しむことができる場となるよう、ユニバーサルデザインを取り入れた施設の整備を進めます。

方針 3 特色のある施設

- 市民が日常的にスポーツに取り組むことができる身近なスポーツ拠点としての機能を維持しながら、各施設の既存設備や立地条件、対応種目等を踏まえ、特徴的な機能や設備を有した特色ある施設の整備を進めます。

方針 4 子供がスポーツに親しむことができる施設

- 生涯を通じてスポーツを楽しむための意識や習慣づくりを図るため、幼児期や低年齢児から楽しみながら体を動かすことのできる施設の整備を進めます。
- 子供の基礎的な体力の向上に寄与することのできる機能や取組が充実した施設の整備を進めます。

5. スポーツ施設の整備にあたって

今後のスポーツ施設の整備に向けては、施設整備方針を踏まえ、各スポーツ施設の具体的な整備の内容や優先順位等を整理した個別施設整備計画を作成したうえで、吹田市公共施設（一般建築物）個別施設計画と整合を取りながら進めていきます。

